

対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力

「現地NGO等との意見交換会」実施報告

平成28年3月17日、首都ドゥシャンベ市において、タジキスタン国内で活動する現地NGO、国際NGO、国際機関、各行政郡からの担当者を対象に、当地初の試みとなる「現地NGO等との意見交換会」を実施しました。公共団体「日本タジキスタン友好協会日本トージ」協力の下行われた同意見交換会には、タジキスタン国内各地から総勢63名の各団体代表者が参加し、タジキスタン各地の様々な現地ニーズに迅速に対応する「草の根・人間の安全保障無償資金協力」スキームへの関心の高さが伺えました。



鎌田臨時代理大使およびハキムゾダ・ハترون州第一副知事による開会の挨拶を皮切りに、同意見交換会では、当館からの草の根スキームの概要説明、過去に案件を実施した2被供与団体からのプレゼンテーション、そして質疑応答・意見交換が行われました。



写真左：
冒頭の挨拶を行う鎌田臨時大使。



写真右：
当館より草の根スキームについて説明を行う様子。

質疑応答・意見交換の場では、それぞれのNGOや地方公共団体が抱える要望や問題について、活発な意見のやり取りが行われました。



1996年に開始した対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力は、2015年度までに、総計352件が実施され、供与総額は29.26億円に上ります。現地のニーズ、そして国内での知名度も高い当スキームですが、申請条件や申請の際の注意点、また案件実施中や実施後の注意点などについて、情報が十分に周知されていない側面もありました。本意見交換会では、これらの点についても重点的に説明を行いました。

本意見交換会実施後、回収したアンケート結果によると、全回答者が本意見交換会で提供された情報が有意義なものであったと答えました。当館にとっても、タジキスタン各地で活動を行うNGOや地方行政郡が抱える要望や問題点について様々な意見を包括的に聞く貴重な機会となり、今後草の根案件をより有効に実施していくにあたり、新たな基盤を築くことができました。